

令和2年度 ダニ又はダニアレルゲン検査 結果表

令和2年11月18日

大阪市学校薬剤師会

【ベッド】保健室等の寝具: ベッド、マットレス、掛敷布団、毛布、タオルケット、ソファ

令和2年度		判 定										検体数 合計
		1		2		3		4		無効		
学校数		検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%	
小学校	289	293	78.76%	47	12.63%	24	6.45%	6	1.61%	2	0.54%	372
中学校	131	141	82.94%	19	11.18%	8	4.71%	2	1.18%	0	0.00%	170
高等学校	20	20	64.52%	9	29.03%	2	6.45%	0	0.00%	0	0.00%	31
全学校	440	454	79.23%	75	13.09%	34	5.93%	8	1.40%	2	0.35%	573
(前年度)	(437)	(478)	(81.71%)	(57)	(9.74%)	(31)	(5.30%)	(19)	(3.25%)	(0)	(0%)	(585)

【その他】カーペット、畳、床、じゅうたん

令和2年度		判 定										検体数 合計
		1		2		3		4		無効		
学校数		検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%	
小学校	289	148	71.15%	22	10.58%	21	10.10%	17	8.17%	0	0.00%	208
中学校	131	56	62.92%	19	21.35%	8	8.99%	6	6.74%	0	0.00%	89
高等学校	20	5	55.56%	2	22.22%	1	11.11%	1	11.11%	0	0.00%	9
全学校	440	209	68.30%	43	14.05%	30	9.80%	24	7.84%	0	0.00%	306
(前年度)	(437)	(207)	(71.63%)	(36)	(12.46%)	(23)	(7.96%)	(23)	(7.96%)	(0)	(0%)	(289)

【全検体】

令和2年度		判 定										検体数 合計
		1		2		3		4		無効		
学校数		検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%	
小学校	290	441	76.03%	69	11.90%	45	7.76%	23	3.97%	2	0.34%	580
中学校	130	197	76.06%	38	14.67%	16	6.18%	8	3.09%	0	0.00%	259
高等学校	20	25	62.50%	11	27.50%	3	7.50%	1	2.50%	0	0.00%	40
全学校	440	663	75.43%	118	13.42%	64	7.28%	32	3.64%	2	0.23%	879
(前年度)	(437)	(685)	(78.38%)	(93)	(10.64%)	(54)	(6.18%)	(42)	(5.69%)	(0)	(0%)	(874)

【検査方法】 * 検査は マイティチェッカー使用

* 判定は 10分後の発色で行う

* 判定基準は ダニ数は100匹/㎡以下、またはこれと同等のアレルゲン量であること

判定結果	ダニ/アレルゲンレベル	判定の目安	汚染度
判定 1 (-)	1μg (10匹)/㎡以下	発色しない	とても快適な状態です
判定 2 (+ -)	5μg (50匹)/㎡	うっすらと発色	良好なレベルです
判定 3 (+)	10μg (100匹)/㎡	ラインが明確	一般家庭のレベルです
判定 4 (+ +)	35μg (350匹)/㎡以上	ラインが太く濃い	通常より多く、除去が必要です
無 効	両方にラインが現れない、または判定基準線が現れない場合は判定は無効です		

* 数値は粗抗原(ダニ抽出物)量です。ダニ(ヒョウダニ)匹数は目安として記載しています。

令和 2 年度 大阪市立学校園 ダニ・ダニアレレルゲン検査報告

大阪市学校薬剤師会 小泉由美子

ダニアレレルギーは、チリダニの仲間であるコナヒョウヒダニとヤケヒョウヒダニによって引き起こされ、多くの国々で環境衛生上の問題として重要視されています。これらは、皮膚(ふけ)を食べて生活しており、咬んだり刺したりするダニではありません。日本に生息するチリダニの代表は、この 2 種類です。

近年、アレルギー症状のある児童生徒等は増加しており、ダニ又はダニアレレルゲンは、アレルギーを引き起こす要因の一つであることから、「快適で健康的な住宅に関する検討会議報告書(平成 10 年 8 月、厚生労働省)」等では、健康で快適な住居環境を維持するためにダニやダニアレレルゲン対策が重要であるとされています。学校においては、保健室の寝具や教室等に敷かれたカーペット等でダニ数やダニアレレルゲン量が多いとの報告もあり、保健室の寝具、カーペット敷の教室等、ダニの発生しやすい場所について検査します。

ダニの基準値は、1 m²当たりのダニが 100 匹以下になるとぜん息の発作が治まったという報告があることなどから、100 匹/m² 以下であることとなっています。アレレルゲンを抽出し、酵素免疫測定法によりアレレルゲンを測定した場合、「100 匹/m² 以下」と同等のアレレルゲン量は、Der 2(ダニの死骸由来アレレルゲン)量 10μg となるため、ダニアレレルゲンの基準値は、Der 2 量 10μg 以下であることとなります。

今年度のダニ検査の総合判定として、一般家庭と同等か、それ以上の良い状態であるとされる判定 1~3 の割合は全 879 検体中 845 検体 96.13%でした。年度ごとに一昨年から 94.31%⇒95.19%、そして今年は 96.31%と改善されており、いずれにしても高い水準で清潔が保たれていました。

一番上の表にありますように今年度は特に保健室のベッドでの『不適』が、1.4%(8/573)と前年度 3.25%(19/585)からかなり減少しました。コロナ禍で保健室のベッド使用自体を中止した学校や、感染予防のため使用ごとにシーツ交換を行ったり、例年よりも清掃頻度を増やす学校が多かったことが『不適』の減少につながったと考えられます。

『不適』のところはその日のベッド使用が多かったとの記載が複数見られました。児童・生徒数の多い学校ではコロナウイルスの感染予防も含め、予備のシーツを用意しておくのも一考かと思われます。

また寝具に関しては、防ダニの布団や敷パッドに交換して昨年の『不適』が改善したとの記載も複数ありました。通常のお手入れでなかなか改善しない場合は、そういった寝具の採用を検討してはいかがでしょうか。

その他(保健室のベッド以外)の検査においては、二番目の表にありますように、『不適』の割合は 7.84%(24/306)と前年度 7.96%(23/289)と同程度でした。『不適』の内訳としては、カーペット・絨毯が 24 検体中 16 検体と 3 分の 2 を占め、残りは畳が 4 検体、マット・寝具が 4 検体という結果でした。特別支援学級や図書室、多目的室などでカーペット敷となっている場合が多いようです。こまめに掃除機をかけ、湿気がこもらないよう換気にも注意してください。ダニの繁殖がみられるようなら、高温スチーム、噴霧式などの薬剤、ダニ取りマットなどでダニを駆除する必要があります。

検査票の記入に関して気になったのは、判定 4『不適』にもかかわらず、事後措置の記載がないものが 13 件あったことです。検査することが目的ではなく、その結果を踏まえて事後措置の指導助言をするのが学校薬剤師としての職務です。実際検査時に不適となった場合、その場では学校側と話し合ったり口頭でお伝えされているとは思いますが、検査票にもその内容をなるべく記載してください。

と申しますのも、そのような事例報告をしていただく事でこちらも貴重な情報を把握することができます。それを各会員にフィードバックして情報共有することで各学校への対応に役立ててもらえればと思っておりますので、何とぞご協力をお願いいたします。